

## 自分ごととして運動の楽しさや喜びを語る子どもの姿を目指して

私たちは「子どもが自分事として運動の楽しさや喜びを語っている姿」を目指して、日々体育学習の理論的・実践的な積み重ねを行っています。

体育科では「豊かなスポーツライフの実現」が目標として掲げられています。その中で私たちが大切にしているのは子どもの語りです。この「語り」は、子どもが運動のコトを理解し、学びの中で実際に試行錯誤しながら紡いでいった言葉を指しています。言い換えれば、この語りの中にこそ、子どもが運動とのかかわりの中で自分事としてどんな楽しさや喜びを見出したのかが立ち現れてくるのであって、その積み重ねこそが豊かなスポーツライフの実現へつながっていくはずだと考えています。

この「語り」は大きく2つの枠組みで捉えています。

第1は身体としての言語です。嬉々として運動に取り組む姿や、どうすれば課題解決ができるか試行錯誤する姿など、子どもが運動に取り組む上で見られる姿があります。これはコトに対して、自分なりに考えたことをどのように表現している姿でもあります。

例えば、ハードル走の単元で「いかにスピードを落とさずにゴールまでたどり着けるか」という問いに対して、「ハードルギリギリを跳び越えた方がスピードは落ちない」、「ハードルを蹴り倒しながら進んだ方がスピードは落ちない」のように、子どもが状況に応じて自分なりの納得解を見出していく様です。

第2は実際の子どもの言葉としての語りです。例えば学習カードの中での自己内対話、子ども同士、或いは教師と子ども同士での対話があてはまります。子どもが運動を通して実感した楽しさや喜び、学びをどのように言葉として紡いでいくのかということを大切にしています。

では、自分ごととして運動の楽しさや喜びを語る子どもの姿の実現を目指して取り組んでいることは何か？その具体化に向けて我々は、「コト・ヒト・モノ」の授業デザインと子どもの「自己評価活動」の在り方について研究を行っているところです。

このHPには、佐賀県体育学習研究会に所属されている先生が、子どもたちと紡いだ学びの足跡や、日々の地区サークルでのつみかさねが上っております。ぜひご覧ください。そして実践をベースにしながらたくさんの方々と語っていくことができれば幸いです。

研究委員長 田中 孝